

3月——卒業シーズンを迎えた。

新型コロナウイルスの影響で、

臨時休校から始まったこの1年。

昨年7月には集中豪雨が県内を襲った。

自然や環境の厳しさに打ちのめされ、

悔しい思いや絶望感に押しつぶされそうに

なるときもあったのかもしれない。

それでもめげずに夢に向かって

力強く歩み出した卒業・卒園生。

今月号では感謝の気持ちを胸に

学びやを巣立った卒業・卒園生をリポートする。

歩む。

苦難を乗り越え、

式典を終え、保護者や先生に見送られながら会場をあとにする卒業生



卒業式後記念撮影する卒業生。春からの高校生活に期待を膨らませているようでした

津奈木中学校卒業式が3月14日(日)に開かれ、卒業生41人が誇らしげな表情で学びやを巣立ち、それぞれの道へと歩み出しました。

新型コロナウイルス拡大防止のため、昨年同様に出席者は卒業生、保護者、先生、在校生代表者のみ。マスクの着用と消毒などを徹底して行われました。卒業生は担任の松岡陽香先生と馬場弘紀先生から名前を呼ばれ、壇上に上がると船場孝洋校長から卒業証書を受け取りました。船場校長から「新型コロナウイルスで世の中は変わってしまったが、困難に立ち向かい強い意志と力で前進してほしい」とあいさつし、在校生代表の山本さゆりさん(丸岡)もはなむけの言葉を送りました。

卒業生を代表して林田夏樹さん(日当)が「新型コロナウイルスや豪雨の経験は、私たちが成長させる糧になると信じています。3年間過ごしてきた日々は私たちににとってかけがえのない宝物です」とコロナ禍での学校生活を振り返り、答辞を述べました。



【写真説明】

①答辞でこれまでの思い出や抱負を述べた林田さん／②涙を浮かべながら親への思いをつづった手紙を読み上げる卒業生／③船場校長から1人ずつ卒業証書を受け取る卒業生／④生徒が思いを込めた寄せ書きを担任に手渡しました／⑤校門前に設置された看板の前で笑顔で記念撮影

